マーケットの動き

スポーツがたしなみ化する世界へ〈前編〉

2021.03.22

Resonance Lab.

COPYRIGHT© 2021 SEMBA

COPYRIGHT © 2021 SEAMBA

レゾ目線で勝手にスポーツ変遷 40 年年表！〈前編〉

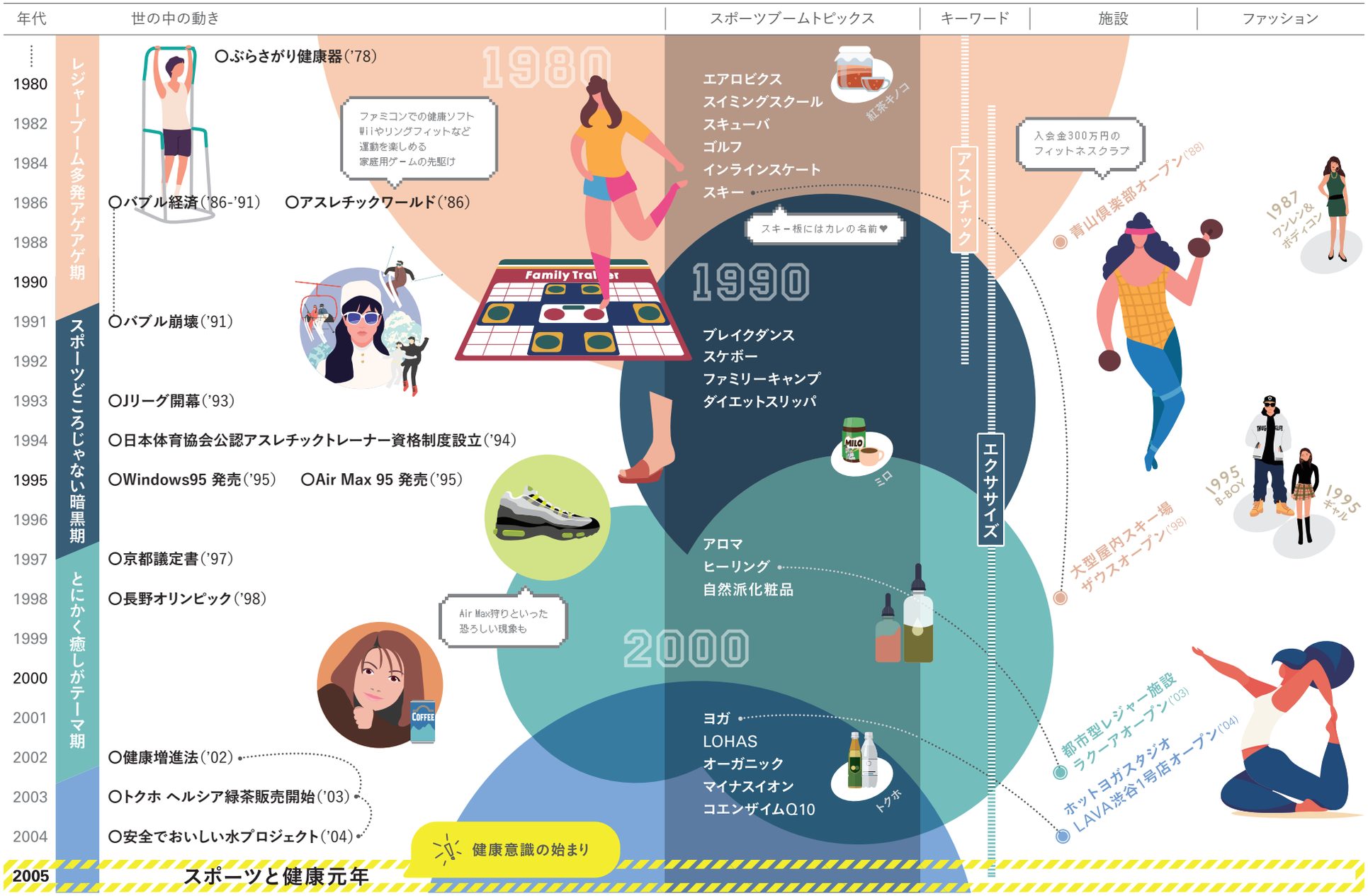

イラスト / デザイン：Shiori Hasegawa（レゾナンス・ラボにて一部加筆）

スポーツがたしなみ化する世界へ〈前編〉

長期に亘った緊急事態宣言で、1年以上続くステイホーム生活のなかで運動不足を感じている人も多いだろう。以前レポートでも取り上げたように「スポーツビジネスの変革」によりスポーツを取り巻く環境はこの数年で劇的に変化してきた。安心材料を求めた「身体内部情報の可視化・数値化」欲求も高まり、感染対策の一環としての健康意識も急速に深度を増している。

エクササイズ、フィットネス、ウェルネス…運動や健康を取り巻く言葉は時代と共に変化してきた。これまでの40年間でそれぞれの時代に流行したスポーツ、ドリンクやフード、ファッション、さらに施設をレゾ目線で整理し、今回はその前編をご紹介する。それらブームの裏には時代背景が色濃く反映し、興味深い結果が読み取れる。

レジャーブーム多発アゲアゲ期 （1980～1990年頃）

レジャースポーツのブームが多発し、バブル経済に乗って娯楽だけでなく恋愛ごとにも幅広く使われたアゲアゲ期。このレジャーブームを受けて建設された大型屋内スキー施設「ザウス」だが、オープン時期はブームからかなり遅れている。大型商業施設建設にかかる多大な時間とブームのズレは永遠の課題だ。

スポーツどころじゃない暗黒期 （1991年～1996年頃）

バブル崩壊によりレジャーブームも終焉となり、スポーツに関する目新しい動きが特に弱い時期。ストリートカルチャーやギャルブームなど世の中へのアンチテーゼの表現や、ファミキャンなどリーズナブルに楽しめるものが流行した。

とにかく癒しがテーマ期 （1997年～2002年頃）

「失われた10年」の後半は『癒し』が一大ムーブメントに。傷ついた心に沁みるマイナスイオンや癒し系女優が台頭する。まずは心の健康が求められ、ヨガ、LOHAS、オーガニックなどが流行。癒しブーム最大の大型商業施設として建設された「ラクーア」だが、こちらも「ザウス」と同様、ブーム最盛期を過ぎてからの開業だ。

スポーツと健康元年 （2005年）

2002年の「健康増進法」の影響から、トクホの流行、「安全でおいしい水プロジェクト」と続き健康志向が高まりを見せる。スポーツをレジャーとして楽しむ80年代、暗黒の90年代、それを癒す時代を乗り越え、人々の意識が身体に向けられるきっかけの時期となる。スポーツと健康の結びつきが強まり、健康意識の始まりとしてターニングポイントとなるこの年を『スポーツと健康元年』とした。

かとマ PICKS

驚愕の真実

確かに、スキーは映えレジャーだった。スポーツというより贅沢な娯楽の一つとしてスキーがあったように思い出す。毎週末スキーに行くことがリア充だった。ゲレンデは冬のお立ち台（恥）。だから車が必要で、アッシーも必須で、メッシーがいて、経済が回っていた（マジ）。

「世の中の動き→生活者のマインド変化→ブーム＆トレンド→そのための施設開発」この流れは脈々と今へつながっている。気になるのは、大ブーム後には反動のような「新しい世の中の動き」が生まれていること。後半の来月号にどうつながるか、期待してほしい。しかし40年を振り返えると、私のきらめく青春時代は、まだ戦後だったのではないか！！？、と驚愕する。

文章：伏見　百代

COPYRIGHT © 2021 SEAMBA